

# まつお新聞

発行所 松尾公民館  
編集人 松尾公民館広報委員会  
印刷：龍共印刷(株)

## やまんばだー逃げて！

### いいだ人形劇フェスタ今年も盛大に開催



今年もいいだ人形劇フェスタが開催され8月6日(土)には新井コミュニティー消防センターで『人形劇団とんとん』による「おりがみとんとん」と「三まいのおふだ」が上演された。

「三まいのおふだ」では、小僧さんが栗ひろいに夢中になるうちにあたりは真っ暗。困った小僧さんの前に現れたやさしいおばあさんが実はやまんばだった。トイレに入っておふだを使うと、小僧さんが2人に。「逃げて」と観ている子供たちが叫ぶと小僧さんは一目散に逃げていく。最後に豆に化けたやまんばがおしよさんに食べられてしまうまで、子供だけでなく大人も人形に釘付けだった。

劇団とんとん代表の前田耕一さんは学生時代にサークルで始めて以来、飯田人形劇カーニバルの頃から飯田を訪れている。「自分もそうだったが、当初は子供たちもはずかしそうに笑っていた。今は人形劇が定着して反応が違う。反応するところも変わってきているように思う」と話していた。



市長に質問する参加者

## 市政懇談会

### 地域課題への関心高まる

7月20日午後7時から松尾公民館ホールで市政懇談会が開催された。これはまちづくり委員会と市が共同して開いたもので、市側からは市長を始め7人、松尾地区民は昨年の倍以上の150人が参加した。まず、宮下会長から「まちづくり委員会が発足して3カ月、委員会をよりよいものにしていく」と話していた。

「地域の子は地域で育てる」等思いを込めた挨拶があり、牧野市長の市政経営説明が資料に基づき行われた。地域課題の保育園跡地利用と児童クラブの件について、まちづくり委員会からの要望に対し、市側からは地区民との話し合いによって決めていきたい、「旧城集会所の第3児童クラブは旧児童センターへ移転することを考えている」との返答がされた。自治活動の支障となつている組合未加入者増加・国道256号と151号の交差点の慢性的な渋滞・小学校周辺の交通安全・環境モデル都市実現のための地元企業との連携等の問題に対する質問や意見が出され、市側は担当者ごとに回答した。

最後に、リニア新幹線駅の現飯田駅併設理由についての質問もあり、市長は要望の経緯を説明し理解を得た。

## 三六災害を語り継ぐ

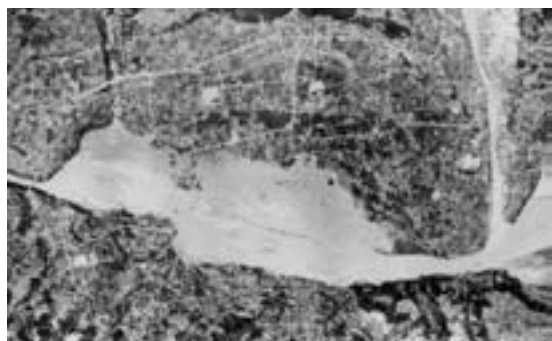
今年で50年目を迎える三六災。昭和36年6月23日から月末にかけての集中豪雨により天竜川が氾濫、明河原を中心に今の明区と清水区の殆どが水に浸った。6月18日松尾地区まちづくり委員会主催で松尾公民館で行われた「三六災を語り継ぐ」には約130人が参加し、当時は振り返った。講師に松島信幸氏を迎え

## 三六災に学びたい

今から50年前の三六災で松尾は死者は出なかったが他の市町村では多くの死者が出た。3・11の東日本大震災では死者、行方不明者あわせて約2万人、また松本の地震、最近では台風12号による近畿・四国地方の浸水と土砂災害の被害。日本中がガタガタになりそうなかでの今回の開催は大きな意味がある。



明地区の浸水



災害直後の松尾地区上空から

心構えと早めの判断と行動が自分を守り、家族や地域を守ることに繋がる。まさにガンバロウ日本である。

## 館長ひろい

松尾自治振興センターには池があり、松村養魚所さんのご好意を頂き色鮮やかな錦鯉が50余匹泳いでいます。センターにて池の管理をしています。時々小さな子供さんを連れとお母さん方が池の周りに来て美しい錦鯉を覗いている風景に出会い、心が和む思いです。この夏は猛暑のためかどうかわかりませんが、鯉が沢山死にました。悲しかったです。池の水は循環式になっていたので、万一池に石ころや他の異物が入ってしまうと詰まってしまう酸素不足で死んでしまう場合があります。親子の美しい心と風景をいつまでも見るには、池の中がきれいできて欲しいものです。

## 癒しの風景 2つ (錦鯉と鈴虫)

明区の金田さんに鈴虫を沢山いただきました。東日本の震災後、日本人の心が何故か内向きを感じる近頃、センターを訪れる方々に初秋の虫の音を聴いてもらい少しでも気持ちが和らいでもらい、また少しでも癒しを分かち合えるようにとロビーに鈴虫を飼いました。公民館のロビーで鈴虫の鳴き声を聴いて地区民の絆と癒しを心から感じ取っていただけだと思います。

ここで一句  
鈴虫も  
主事も鳴いており  
公民館  
(館長)

## こんにちはは角田です

最後に、リニア新幹線駅の現飯田駅併設理由についての質問もあり、市長は要望の経緯を説明し理解を得た。

## ふれあいひろば

探勝会 25人が参加し、6月23日、安曇野ちひろ美術館、ガラス館「アートヒルズ」、「安曇野温泉郷」、「大王わさび農場」、植物園「HAMフラワーパーク安曇野」、奈良井宿、「おひさま」ロケ地等を見学した。

松尾公民館で6月25日に、松尾小学校の児童を中心に角田館長以下50人で「原始時代に帰ろう」のテーマのもと、摩擦などによる火おこしに挑戦した。

分館対抗ニュースポーツ大会 6月26日開催。総合優勝は新井。ベタンク優勝は清水。ふらばーの優勝は新井、城。囲碁ボール優勝は上溝、新井。

ラフティング体験教室 33人が参加し、7月16日、弁天橋から川路のかわらんべまでのコース約10kmをゴムボートで荒波の流れの中を下った。

▼軟式野球大会 8月28日開催。優勝は水城、久井。▼分館対抗マレットゴルフ大会 松尾マレットゴルフ場で開催。総合優勝は水城。男子の部優勝は水城。女子の部優勝は常盤台。

## 自治振興センター 職員の異動

今年度、市役所人事異動により、新しく2人が着任しました。



○保健師 塩澤みなみ



○庶務担当 原 博章 (秘書課)

○保健師 鈴木 友美 (保健課)

## 松風

最近、著書「日本沈没」で知られるSF作家の小松左京が亡くなった。折りしもの

松尾の人口

男子	6,042人
女子	6,643人
計	12,685人
世帯数	4,639世帯
8月末現在	



# 2011 夏の日のスケッチ

## 寺所 超大入り！ 夏祭り 大事なものは地域の繋がり



鳥・焼きそば・綿菓子などに長蛇の列。盆踊りでは夏休み中、ラジオ体操の後に練習した成果を子供たちが披露した。また喧噪の中に



も区民の談笑があらちちらで垣間見られ、交流の場としても貴重なものとなった。最高潮の花火の時間に突然の雨でまさに水を差されたものの、豪華景品が当たった。最高潮の花火の時間に突然の雨でまさに水を差されたものの、豪華景品が当たった。最高潮の花火の時間に突然の雨でまさに水を差されたものの、豪華景品が当たった。

その後、美術博物館へ移動。プラネタリウム開演までの約1時間半は自由行動とし、各自思い思いに昼食と館内見学に当たった。開催中の3つの展示のうち「御池山隕石クレーター展」では、重さ3ギの鉄隕石に触ることができ、ずっしりとデジタル式にリニューアル



美博に展示されたH2Aロケットの模型の前で

「ペンギンが空をとぶ」は、本当に飛ぶと思うが、ペンギンの水槽の下を人がくぐると、空をペンギンが飛んでいるかのように見える。それがペンギンの飛ぶ姿だった。

8月21日、明の防災センターで松尾サイエンススクールによる「出張サイエンススクール」が開催された。この会は子供たちが科学のおもしろさを体験できることを願って結成され、三浦宏子さん（八幡町区）をリーダーとして定期的に科学実験教室を行っている。この日は松尾小学校明支部の子ども会1年生から6年生まで70人余りの児童が集まり、液体窒素を使った科学実験と万華鏡作りが行われた。

「風船がしぼんでびっくりした」「だんだんふくらんで不思議」など子供たちは驚きながら実験に引き込まれていった。万華鏡作りでは、カラフルにしたい、明るい感じにしたいと、何度も色をいじり、何度ものぞいては色を工夫しながら作っていた。子供たちが楽しそうに実験に参加している姿から、保護者からも、「子供たちが興味津々で楽しそうだった」「班ごとに万華鏡を作り、助けあって良かった」と満足した話が出ていた。

## 明 出張サイエンススクール



「ワッ、飛んだ！」液体窒素によるフィルムケースのキャップ飛ばし

久井区「いきいきセミナー」は「市内の文化芸術施設を訪れる」と題して、7月10日、28人の参加で行われた。ここ数年バスハイイクが続いたため、今年には往復飯田線利用の企画であった。9時15分に伊那八幡駅に集合。何年かぶりで電車に乗る人も多く、「ボタンを押すことから学習」と、ワンマンカーに乗り込んだ。飯田駅からは徒歩で川本喜八郎人形美術館へ向かい、「三国志」の人形やアニメなどを約1時間かけて鑑賞。係員の説明もあり、非常に好評だった。

その後、美術博物館へ移動。プラネタリウム開演までの約1時間半は自由行動とし、各自思い思いに昼食と館内見学に当たった。開催中の3つの展示のうち「御池山隕石クレーター展」では、重さ3ギの鉄隕石に触ることができ、ずっしりとデジタル式にリニューアル

## おもしろい動物園 「ペンギンがとんでいる」

松尾公民館映画鑑賞会が7月2日に公民館ホールで行われた。今回は、旭山動物園物語「ペンギンが空をとぶ」が上映された。北海道旭川にある旭山動物園は来場者が年々減る中、閉館の話も持ち上がるが、その危機をどうやって動物園のスタッフで防いだのか色々な苦勞を描いている。日本最北のままに当てる。小さな子供たちには上映時間が長かったのかウロウロ、ガヤガヤ。だが動物たちが出てくると画面に入っていた。「ペンギンが空をとぶ」とは、本当に飛ぶと思うが、ペンギンの水槽の下を人がくぐると、空をペンギンが飛んでいるかのように見える。それがペンギンの飛ぶ姿だった。



ペンギンが空をとぶ

## 八幡 「震えた」初めての震災地



新鮮な野菜・肉・魚がない

山本拓也さん（八幡町区）の「大震災から4カ月、被災地の現状」と題した講演会が、7月27日に八幡町公会堂で開催された。山本さんは、陸前高田市を中心に避難所をまわり調達した援助物資を運び込み、また、炊き出しなどの活動を行った。7回現地に入ったが、初めは、現地で大船渡の越喜来地区を教えてもらいそこへ向かうと、川沿いから1キロ位の場所に入った途端に瓦礫の山。ハンドルを握る手が震えた。この時に初めて、ここは震災地だと感じたという。またネットで調べて必要

な物資を持って行っても、必要ない所が多く、炊出しをしてほしいとの要望に避難所に向かうと、ここでは新鮮な肉や野菜や魚などの食料がほとんどなく、温かい食べ物にも飢えていた。ある避難所では、身内を失った人たちがたくさん集まり、「ひとりぼっちにはなつたが、ここで大きな家族が出来た」と話していたそう。山本さんは、「放射線の線量計が振り切れていたが報道されていないと聞き、情報は当てにならないと感じた」「少しでも現地の方たちの役に立てれば」と、今後の支援活動も旨めて熱く語っていた。



全国大会入賞!!

## 人物さんぽみち

103

松尾小学校6年生の米澤和真君は、所属する松川町陸上クラブで今年、小学生陸上大会・男子4×100リレーに第2走者として出場した。チームは5月の飯伊大会を新記録で制し、県大会でも大

毛賀 米澤和真 君 (12)

会新記録の51秒95で優勝、全国大会出場を勝ち取った。8月27日の全国大会では51秒92と自らのベスト記録をさらに更新、長野県勢のリレーでは初めて決勝に進出して見事6位入賞を果たした。走ることが好きで、幼い頃は各地のマラソン大会に家族で参加し、父や母と手をつないで走るのが嬉しかった。低学年の頃は姉たちが走るグラウンドの横で無邪気に遊んでいた。そんな少年が、いつしか自分の足でトラックを走るようになり、そして今年、仲間とともに全国大会入賞の快挙を成し遂げた。陸上一色の夏休みが終わり、また普通の生活に戻った和真君。今は松尾地区運動会のパン食い競争が楽しらしい。